



## アトピー性皮膚炎

2004年2月28日(土)

アトピー性皮膚炎の患者（8歳）さんで、幼少の頃から、喘息やアトピーで除去食などで調整していた。

ファミリーカイロで基本的なアレルギー治療を終えて、ほぼ安定してきた状態であるが、ひじ関節の部位に少し赤みが出ていた。

お父さんによると、洗剤のアレルギー治療を終えた後は、ほぼ良くなっていたが、昨日から少しかゆみが戻ってきたとのこと。

原因を調べてみると、学校給食のプリンである。

安定期に入っているのですが、後にかゆみや赤みがなどの症状が出たときが、アレルゲンの特定、並びに治療のチャンスとなる。

通常は、原因となるアレルゲンを避けるという予防法が当たり前になっている。また、病院でのアレルギー治療も症状を抑える治療法が基本で、根本治療ではない。

アレルギー症状の原因となるアレルゲンを特定し、そのアレルゲンと共存できる根本治療が当たり前となる社会にしなければ・・・